

本件連絡先
独立行政法人 国立科学博物館
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
情報・サービス課長 井上 透
Tel 03-5814-9861 Fax 03-5814-9898

平成18年7月

報道各位

日本中の動植物標本を探せるシステムが完成
ーサイエンスミュージアムネットが更に充実ー

国立科学博物館では、平成18年8月4日(金)より日本中の動植物や菌類標本を探せるシステムをオープンします。

これまで、全国の博物館や大学が所蔵する動植物標本などを横断的に探すことは不可能でした。今回、国立科学博物館が、全国の博物館や大学の協力により開発した「自然史標本情報検索システム」は、各館・各大学の多様なデータ形式を変換するソフト(データクロスワーク)の実現により可能となりました。

検索できる項目も多岐にわたっています。学名、分類(界名、門名など)、採集日、採集地(国名、都道府県、市町村名など)、所蔵博物館の検索が可能となり、これらを組み合わせでの検索もできます。また採集地点の分布を地図に表示することも可能となります。

そのため「特定の博物館が所有する標本を知りたい」「特定の期間に採取された標本を知りたい」といった様々なシーンに対応した検索が簡単に可能となります。また、利用やデータの登録に際しての料金は一切かかりません。

また、データについても各博物館等が拠出していますので信頼性も高く、プライベートはもちろん公的な場面でも安心して使用することができます。今回は12博物館と2大学の連携により約30万件のデータが提供され、それらは地球規模生物多様性情報機構(GBIF)(*1)を通じて、世界中で利用されることになり、国際的なデータベースの充実にも貢献します。

来年度は東日本を中心に約20の博物館、大学、研究機関が新規に参加される予定です。GBIFでの活用に見られるように、日本中の動植物や菌類標本を横断的に探すシステムは、膨大な量の動植物データの流通により自然史研究の新しい時代を開きます。将来的には数百万件に及ぶ自然史標本データを登録し、このデータベースにて殆ど全ての自然史標本情報について横断検索できるようなシステムにしたいと考えています。

これらの検索システムは昨年8月にオープンした「サイエンスミュージアムネット」のコンテンツの1つとして稼働します。このシステムの稼働によりサイエンスミュージアムネットは更に充実し、より使いやすいポータルサイトサイトに生まれ変わります。

サイエンスミュージアムネット

URL http://www.science-net.kahaku.go.jp/index_new.html

自然史標本情報検索の概要

構成

今回オープンする「自然史標本情報検索」は昨年8月にオープンした「サイエンスミュージアムネット」のコンテンツの1つです。

サイエンスミュージアムネットは全国の科学系博物館のweb情報を横断検索する「Web情報検索」と今回オープンする「自然史標本情報検索」の2つのコンテンツで構成されることになりました。

【サイエンスミュージアムネット トップページ】



【自然史標本情報検索のページ】

検索条件入力

検索

検索条件クリア

検索に関するヘルプ

■ 標本情報

学名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
和名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
界名	<input type="text"/>		
門名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
綱名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
目名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
科名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
属名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
種小名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
タイプ標本	<input type="text"/>		

■ 採集に関する情報

採集日付	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ~ <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日		
採集地: 国名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
採集地: 都道府県名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
採集地: 市区町村名	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
採集地詳細	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索
所蔵博物館	<input type="text"/>	部分一致	項目内AND検索

検索条件指定

検索結果表示指定

一覧表示件数 10件 50件 200件

項目間検索 AND検索 OR検索

ソート なし 学名 採集日付 博物館

検索

検索条件クリア

Copyright(C) 2006 National Science Museum, Tokyo. All rights reserved.

データの登録・閲覧

データ登録の仕組み

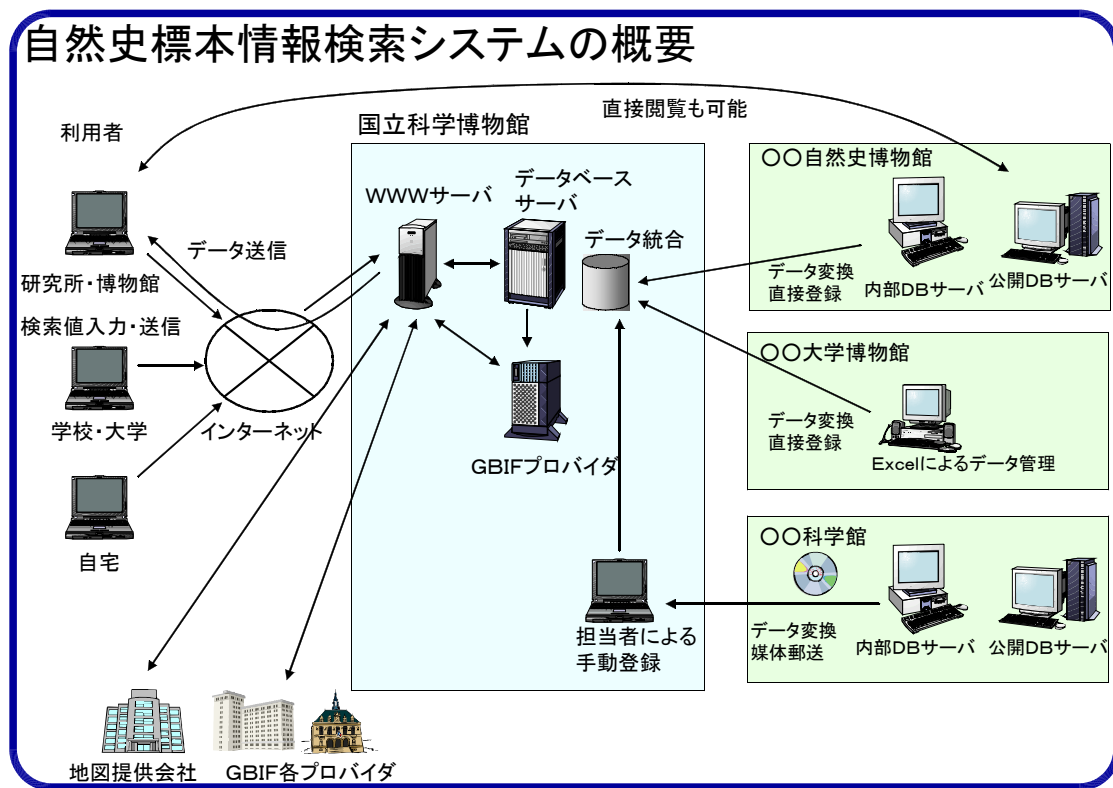
データの登録をしたい研究者はまずデータのcsvファイル(*2)を準備し、国立科学博物館が無償で提供するデータ変換ソフトを用いて統一フォーマットに変換し、当館が運営するデータベースサーバに登録します。基本的にデータの変換に際しての費用負担はありません。

その後国立科学博物館内で登録されたデータをデータベースに公開します。

データ閲覧

データの閲覧を希望する方はインターネットにてサイエンスミュージアムネットにアクセスして閲覧することができます。この際も費用等は発生しません。

また、「自然史標本情報検索」は学名、和名はもちろん、採集地や特定の機関が所有する標本資料について検索することができます。その際にも全文一致、部分一致など多彩な検索項目の指定が可能となっております。



【用語解説】

(*1)地球規模生物多様性情報機構(GBIF)

地球規模生物多様性情報機構(GBIF)は経済協力開発機構(OECD)の勧告に基づき国際的学術団体として2001年にデンマークのコペンハーゲンに設置。各国の動物、植物、微生物、菌類等生物多様性に関するデータを有する研究機関、博物館をネットワーク化し、全世界的に横断検索により利用することを主目的とした国際科学プロジェクト。現在、全世界で9000万件のデータが提供され、自然科学の研究だけでなく、標本の採集地分析による温暖化研究や感染症対策への活用が行われている。

(*2) csvファイル

テキスト形式の一つで、データをカンマ(,)で区切って並べたファイル形式。非常に汎用性が高く、データ保存やアプリケーション間のデータ移動などで広く利用されている。